

全国縦断仕事おこしシンポジウム

感想

「仕事おこし・まちづくりを考える 市民の集いin うえだ」の感想

原山政幸(労働者協同組合なごの)

厳しい雇用・失業に目を向けながら、地域に必要とされる尊厳ある仕事をおこしていく主体は市民であり、その仕事をおこしていく選択肢の一つとして労働者協同組合(ワーカーズコープ)を知ってほしかった。そして一緒に取り組もうということを決めた。今回の仕事おこしシンポを通じて呼びかけたかった。その想いは少しは伝わったのではないかと思います。具体的には何をしたいということを決めていくことが求められていますので、その準備もしっかり進めたいと思っています。

6名のパネリストは、人と人のつながりや、つながっていくことで喜びや活気がみなぎっていくような実践を自発的に創り上げていて、結果として仕事おこしやまちづくりにつながっているように思いますし、そんな仕事を私たちも創り上げたいとの思いがこみあげてきました。

最後に「事業とボランティア活動」について質問を受けましたが、私はいろいろな関係性が考えられますし、多様な関係性があるべきだと思います。どちらでなければならぬということではなく、それぞれが織りなして一つの地域をつくる。私たちはその中でも、仕事として生活も成り立たせながら、働きがいの

ある仕事をしてその地域で暮らせる働き方・生き方をつくっていきたく思いますし、他の様々な事業や活動と結んでいきたく思います。

